

講座名（専門科目名）	社会医学（環境医学）	
担当教授	祖父江 友孝	
研 究 内 容		
<p>人間の生命・生活・生産を衛るための対策の在り方について、集団科学の手法を用いて検討する。具体的には、以下の研究課題を取り上げる。</p> <p>I. 科学的根拠に基づくがん対策の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん統計システムの体制整備とデータ利用 地域がん登録・院内がん登録を用いて収集されたがん統計データを用いた解析をすすめ、がん対策への利用を推進する。 2. がん医療の質評価 院内がん診療連携拠点病院等において Quality Indicator を測定し、がん医療の質評価を行う。 3. がん死亡減少につなげるがん検診の実施 「有効ながん検診が正しく行なう」ことによりがん死亡減少につなげるがん検診の実施方法について検討する。 <p>II. 研究成果を対策に結びつけるための基盤整備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公的統計の利用促進 現行制度の元での公的統計の利用を促進するとともに、個人単位のリンケージを含めた公的統計の利用を促進する。 2. 数理モデル・シミュレーション研究機能 数理モデルを用いて対策の立案・評価するとともに、将来の疾患シミュレーションに基づく疾病負荷ニーズに応じた資源配分計画の立案などに応用する。 3. Evidence Practice Center 構想 根拠に基づく「ガイドライン」を作成する前提となる系統的レビューによるエビデンスレポートを作成する機能を構築する。 4. 高齢者における治癒を endpoint としない介入評価 生存時間延長に代わる評価指標を開発する。 <p>III. 環境リスク評価研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般環境におけるリスク要因の健康影響 低濃度長期曝露の健康影響を評価する疫学研究を検討する。 2. DNA の脆弱性に影響を及ぼす環境要因についての研究 環境因子（ライフスタイル、ストレスなど）および遺伝因子を考慮に入れた、染色体 DNA 損傷とその修復能を定量的に測定し、発癌物質（化学物質）や放射線など目に見えない健康被害の要因となっている DNA の脆弱性に関連する因子を探る。 <p>IV. こころの科学と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知神経生理学（脳科学）的知見にもとづく精神疾患の病態メカニズムの解明 脳機能画像（fMRI, NIRS, PET, etc.）、眼球運動計測（サッカード運動計測、視線追跡）などの手法を用いて、子どもの精神疾患（広汎性発達障害など）、統合失調症、うつ病、強迫性障害などの脳における生理学的な病態メカニズムを調べ、早期治療や予防対策に役立てることを目的とする。 		
著 者	研 究 業 績	掲載雑誌・巻・号・頁等
Sobue T.	Scientific approach to radiation-induced cancer risk.	Fukushima J Med Sci・57(2):90-2・2011

Matsuda T, Marugame T, Kamo K, Katanoda K, Ajiki W, Sobue T	Japan Cancer Surveillance Research Group. Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2006: based on data from 15 population-based cancer registries in the monitoring of cancer incidence in Japan (MCIJ) project.	Jpn J Clin Oncol • 42(2):139-47 • 2012
祖父江友孝	我が国のがん統計に関する現状と課題	統計数理 • 59(2) ; 163-172 • 2011
Kitamura-Y, Matsuo-Y, Kobayashi-Y, Mohri-I, Taniike-M, et al.	Saccadic eye movements as a neural correlate measure of preparatory set in children with ADHD.	Neuroscience Research • Vol.68 • supplement1(e96) • 2010
Lu-Y, et al.	Is Habitual Alcohol Drinking Associated with Reduced Electrophoretic DNA Migration in Peripheral Blood Leukocytes from ASDH2-deficient Male Japanese?	Mutagenesis • 24(4) • 303-308 • 2009
学生への指導方針	学生に対する要望	備 考
興味のあるテーマに応じて担当教員が指導にあたる。自主自律性を重んじつつも、データに基づく解釈の基礎をしっかりと身につけた上で、バランスのとれた判断ができる能力が身につくように促して行きたい。	疫学を基礎とする集団科学の考え方をマスターした上で、人間と社会の接点に目を向け、自由闊達に意見交換しながら研究に取り組んで欲しい。	【連絡先】 TEL:06-6879-3921, 3922 FAX:06-6879-3928 Email: ytkitamura@envi.med.osaka-u.ac.jp URL: http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/envi/index.htm